

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

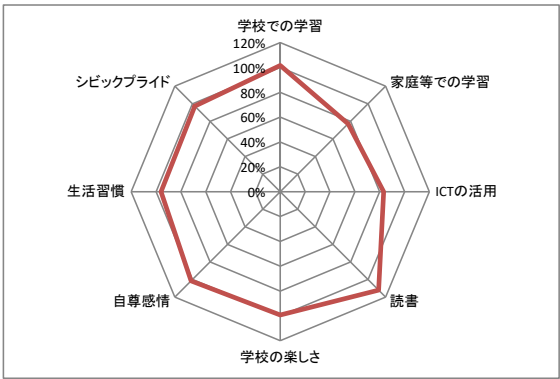
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較し、上回っている。特に「知識・技能」の領域は、全国を上回っている。また、文章の種類とその特徴について理解しており、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分か聞きたいことの中心を捉えることができています。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力が課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国・本市と比較して、若干下回っている。特に正三角形の意味や性質などの、図形の問題の正答率が下回っている。しかし、伴って変わる二つの数量について表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることや、（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることはできている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「データを活用」の領域に関する問題	
	努力が必要な問題	「図形」の領域に関する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「友達関係に満足していますか」との問いに対して、約90%の児童が肯定的に回答している。 ・学校全体で取り組んできた「思いやりのある行動ができる子どもの育成」が、よい結果に結びついていると考えられるため、今後も引き続き「あったかことばの木」「今日のきりりさん」の取り組みを継続する。 ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思います」との問いに対して、93%の児童が肯定的に回答している。 ・スクールプランの「授業の中でタブレット端末を使える子ども90%以上」の取組の成果であり、今後も継続する。 ・家庭での読書や学習の時間についての質問は肯定的な回答が低かった。興味があること、面白いと思ったことを進んで調べるような主体的な学習や、家庭学習時間の指定等、「家庭学習の習慣化」が昨年に引き続き課題である。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に肯定的な回答が多かったことや調査結果から、国語では学習に前向きに学習に取り組めるようになったと考えられる。しかし算数では苦手分野への取組が進んでいない。今後も引き続き、主体的・対話的で深い学びへ誘う授業を通して、苦手分野をなくす様な教育活動の充実を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に肯定的な回答が低かったことから、家庭での学習の習慣づくりに課題がある。今後は、家庭学習の大切さやタブレット端末等を活用した個別最適な学習方法の啓発や推奨を通して、児童がより一層、家庭で主体的に学習に取り組めるようにする。